



たまだれ
No.72

玉垂

Tamadale



特集

鈴木正彦記念土鈴館開館セレモニー (8月23日)

例祭の斎行
～日々の“感謝”を伝え
ともに“喜び”をわかちあう～

鈴木正彦記念土鈴館開館！
～祈りと土鈴～ 日本最大級の
コレクション館が小國神社に！

特別寄稿文

古代のまつりと土鈴
～使い方からわかる『変わらぬ効用』～ 國學院大學神道文化学部教授 加瀬直弥

トピックス

宮代神饌田御田植祭の斎行 ～むかしの手ぶり そのままに～

一宮花しょうぶ園の開園 ～八十種八万本が彩る、初夏の風物詩～

夏越大祓式の斎行 ～祓い、清める伝統の心～

遠江国一宮

小國神社のご由緒

創

始は神代と伝えられ、延宝八年（一六八〇）の社記によると、人皇二十九代欽明天皇の御代十六年（五五五）二月十八日に本宮山峯（本宮山）に御神霊が顕れた後、勅使が遣わされ、山麓約六キロの現在地に社殿を造営し、正一位の神階を授けられました。

それ以来、年々御神前に幣帛を捧げられ文武天皇大宝元年（七〇一）春十八日に勅使奉幣の際、特に十二段舞楽を奉奏されました。延喜七年（九〇七）延喜式内社に列せられ、中世には徳川家康をはじめとする武將など、朝野の崇敬が極めて篤く近世に至っております。

元龜三年（一五七二）の戦では、家康公は御神霊を別所に遷し、願文と三条小鍛冶宗近作の太刀を奉り戦勝を祈願した後、社殿を全て焼失しました。

天正三年（一五七五）に勝利を得た家康公は、御本殿の造営、拝殿・楼門を再建され、更に社領五九〇石の朱印を奉り、以降世々の徳川將軍家より、社殿の改造・修復料を寄進されました。

明治六年六月十三日に国幣小社に列せられ、明治十五年三月に再度の火災により御本殿以下建造物など消失しましたが、明治十九年に復興され現在に至っております。平成十七年には御鎮座一四五〇年祭が斎行され、『遠江国の一宮さま』として崇敬され広く親しまれております。

また、平成十五年九月十四日には、秋篠宮文仁親王殿下同妃紀子殿下のご親拝を賜り、平成十八年十一月八日には、神宮祭主池田厚子様のご参拝、平成二十九年四月二十九日には、高円宮妃久子殿下のご親拝を賜りました。

令和六年十月二十五日には、初の海外分祠シラチャ小國神社がタイ王国にご鎮座となりました。

小國神社と

徳川家康公の知られざる歴史・秘話も…是非ご覧ください



小國神社のはじまりから
現代までの壮大な物語

小國神社ものがたり
ご祭神とともに



公式ウェブサイト特設ページで
スペシャルムービー公開中

小國神社ものがたり

検索



日本の神様の物語は
『日本の良き国柄』、『伝統』、『文化』を
今に伝えています。

この物語は、静岡市在住の絵本・造形作家のたたらなおきさんよりご奉納いただいた全長約七メートルの絵物語をもとに作成をしたアニメーションです。神代より語り継がれてきたお話には、

日本人の「豊かで優しい和の心」の原点が描かれています。神々の営みの中から「正しい道筋をたてて生きてゆくことの大切さ」や、「思いやりのこころ」を学びましょう。



川遊びを楽しむ子どもたち（8月1日）

節目を迎えて

立秋を迎え秋となりましたが、ご神域を南北に流れる一宮川では、連日家族連れの皆様が川遊びで涼を求めに訪れます。水着や浮き輪姿の元気な子供たちの童声に大勢もさぞお喜びのことと拝察申し上げます。

本年より、明神通り振興会の新規事業『青もみじライトアップ』も試験的に始まり、新たな夜の参拝スポットとして、皆様へ広くご案内できるよう明神通り振興会の活動にも協力してまいります。

さて、七月二十日に投票が行われた参議院選挙では、投票率が十八年ぶりに五十八パーセントの水準に戻ったとの報道がありました。一方で、選挙期間中、とくにインターネット・SNSなどで過激な言論が目立っていました。あたかも内憂外患の我が国の状況を憂いているようで、相容れない政治家や言論人に罵詈雑言を浴びせる匿名のアカウントが随分と増えたように思います。日本語を粗雑に扱って、本当に日本のことを考えているのかと疑わしい気持ちに成らざるを得ません。言葉の丁寧さや過剰な自己演出への躊躇いなどが失われ、センセーショナルで過激な物言いが増える。SNSの情報に翻弄され、人心が大きく動かされたこともまた事実なようです。我が国の美徳である、言葉の美しさや自分の意見を表明する際の品格ある姿勢こそが、無用な分断を産まず本質的な議論を進める為にも肝要なことと存じます。

ところで、本年は終戦八十年の節目の年です。戦後生れが九割以上という我が国では戦争を知る人がほとんどいなくなり、多くの日本人にとって戦争が遠い過去の出来事になりつつあることは否めません。しかしながら、今日の我が国の存在、国民の命が繋がっているということは、先の大戦で尊い命を捧げ我が国を護った先人のお陰に他なりません。これは、決して忘れてはならない歴史の事実です。一方で、世代をまたいで平和な世の中が続くと、どうしても「平和が当たり前」という感覚になります。しかし、世界を見渡せば戦火は絶えませんが、侵略を目論む国もあります。したがって平和を維持する為には、外交力と国防力がセットであることは今や国際常識であると言っても過言ではありません。

私達は真剣に物事に取り組むとき、神仏やご先祖様に手を合わせます。同様に、戦歿者の慰霊と感謝の誠を捧げることは、平和への第一歩です。国の為に家族を思い散華された英霊とすべての戦歿者に深く思いを致し、「現在」から「未来」へ平和を維持していく為には何をなすべきか国民一人一人が真摯に向きあい行動を起こしてゆく節目の八十年であると存じます。

時節柄暑い日が続きますが、氏子崇敬者各位のご壮健を心よりお祈り申し上げます。

令和七年八月二十日



大神様のもとに集い

日々の感謝を伝え
ともに喜びをわかちあう

「お祭り」は日本が世界に誇る「祈りの伝統」です

●例祭とは

神社にとって最も重要な祭祀の一つで、最も重い^{さいかい}斎戒を経て、年に一度執り行います。その神社やご祭神にとって特別に由緒あるお祭りで、俗に例大祭とも称されます。

当社では、ご祭神大己貴命（おおなむちのみこと）が本宮山に鎮まったとされる吉日です。

●神社の「お祭り」の本当の意味とは？

お祭りという、デパートのお客様感謝祭や、文化施設などでは、国際映画祭、芸術祭、あるいは最近流行のオクトーバーフェスト・音楽フェスなど賑わいを見せるイベント的な意味合いで使われることもあります。

神社においてもお祭りによっては、行列が登場し、笛や太鼓の調べが流れ、屋台が立ち並ぶなどの賑やかな部分もあります。

しかしながら、神社でのお祭りの本当の意味は、そのような賑やかな部分も含め、心身を清め、神様に対面し感謝の真心を捧げることにあります。

●「まつり」の語源

「まつり」の語源は神様のお力に従い奉仕する「まつらうふ」という言葉に由来するとされています。

また、「まつり」ということばには「待つ」という意味も含まれています。

太古の昔、神様は遠いところからいらっしゃりに、山や岩そして木などに宿ると考えられてきました。

このようなことから、神様が現れることを「待ち」、ご神威に服することが「まつり」の語源であると考えられています。



例祭期間の ご報告

今年の例祭期間は四月十六日(水)

末社塩井神社の垢離祭（神職・舞楽人が身を清める塩水を汲むお祭り）の斎行に始まり、十七日(木)には前日祭を斎行、無事に十八日(金)を迎え、例祭を執り行いました。

また十九日(土)午後二時から国指定無形民俗文化財でもある古式十二段舞楽を大前に奉奏しました。

翌日、二十日(日)十一時から古式十二段舞楽を奉奏し、午後二時から神幸祭では、天候にも恵まれた中で神輿渡御が行われ、大宝元年（七〇一）の勅使参向の時代絵巻を再現した勅使行列が参道を華やかに飾りました。本年の勅使役には森町議会議長 吉筋恵治様にご奉仕いただきました。また、期間中には静岡新聞社・中日新聞社による取材があり、例祭の様子と、古式十二段舞楽の歴史と魅力が地元紙で紹介されました。

氏子崇敬者の皆様におかれましては、常日頃変わることのない祭事、行事へのご奉仕に對しまして心より感謝を申し上げますとともに、益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

▶ 森町長 太田康雄様



▶ 浜松市長 中野祐介様



▶ 静岡県神社庁長 河村基夫様



▶ 例祭斎行後に挨拶を述べる宮司



▲ 晴れて氏子となった地域の皆様



▲ 舞揃 舞の仕上がりを確認します (4月17日)



▲ 塩井神社垢離祭に参列する舞楽奉仕者 (4月16日)

本年の例祭は、森町長太田康雄様・浜松市長中野祐介様・静岡県神社庁長河村基夫様をはじめ、一七〇名を超える皆様にご参列をいただき、厳肅のうちに斎行いたしました。
多くのご参列を賜りましたこと重ねて御礼申し上げます。

四月十八日(金)

例祭の斎行

前日祭は、例祭の無事の斎行を祈る大切なお祭です。
その起源は、重要な祭祀の前夜に神霊の降臨を祈る祭りが始まりと考えられています。
責任役員の皆様ご参列のもと斎行いたしました。

四月十七日(木)

前日祭の斎行

責任役員の皆様・舞楽奉仕者ご参列のもと、末社塩井神社の垢離祭を斎行いたしました。このお祭りは例祭を斎行するにあたり、神職・舞楽人が身を清める為の塩水を汲むお祭りです。

四月十六日(水)

垢離祭の斎行



▲ 170名以上の方にご参列いただきました (4月18日)



▲ 例祭期間の夕刻の境内の様子 (4月17日)



▲ 列をなす神宝捧持奉仕者 (4月20日)

試楽（古式十二段舞楽奉奏）

四月十九日(土)

この日の舞楽奉奏は「試楽」と呼び、翌日の奉奏は「本祭」と呼ぶ習わしがあります。

「試しの楽」と書きますが、舞楽人一同は真剣そのもののご奉仕です。

氏子入り奉告祭の斎行

四月十九日(土)

氏子入り奉告祭を斎行し、氏子地区内に新しくお住まいになられた皆さまにご参列いただきました。

氏子地区内に新たに加わられたことを大神様にご奉告申し上げ、さらなるご加護と氏子地区の安泰をお祈りいたしました。

古式十二段舞楽の奉奏

四月二十日(日)

優雅で力強い舞には、国と地域の平安そして、人々の繁栄の祈りが込められます。

本年は天気にも恵まれ、ご神前に奉納される舞と奏楽を多くの皆様が拝観されていました。終了後には、永年奉仕者の表彰式を行いました。

大場 篤指南役をはじめ伝承に関わる保存会の皆様のご尽力に感謝申し上げます。



勅使役 森町議会議員 吉筋恵治様 ▲
(4月20日)



神幸所祭の様子 (4月20日) ▲



▲神輿渡御の様子 (4月20日)

神子舞奉仕者御芳名

(敬称略・順不同)

指南役 奉仕者

原田多加資
山崎 菜結・鈴木明日香
大場 湖夏・朝比奈李実

神子舞とは

当社の神子舞（御神楽）は、天正18年（1590）の「遠州小國一宮天宮神領之事」が初見で、400余年の伝統を誇ります。

延宝6年（1678）の「配当帳」に「御子 式部・蔵人・靱負・斎」とあり、すでに近世初期には4人の舞となっていました。

現在の指南役、原田多加資様は伝統文化の継承に尽力されています。



還幸祭 拝殿での神子舞奉奏 ▲

森町指定無形民俗文化財 神子舞(巫女舞)



神幸所祭 神子舞の奉奏 ▲

神子舞の奉奏

四月二十日(日)

本年は天候にも恵まれ、神幸祭を執り行うことができ、勅使役、神宝捧持者、神輿役奉仕者など総勢二〇〇名を超える皆様が供奉・参列するなかでの神子舞の奉奏となりました。

一糸乱れぬ舞姿はまさに神様に奉仕する姿そのものです。原田多加資指南役を始め、ご奉仕の皆さまに感謝申し上げます。



大神様へ捧げる「誠の心」

一三〇〇年続く幽玄の伝統

特殊神事芸能 小國神社古式十二段舞楽

(重要無形民俗文化財)

古式十二段舞楽は、小國大神様への誠心をもって奉納することを本義としています。

大宝元年（701年）春18日、都から勅使（天皇の使者）が都から出向き、現在の社地に里宮を開き、十二段の舞を奉納したことが舞楽の始まりと伝承されています。また、舞楽は、東洋に発達した古代芸術の代表的なもので、『東洋文化の粹』とも言われています。

当社の舞楽の細部には、中央で失われたとされている所作が部分的に残っており、その文化的価値や伝承活動が認められ、昭和57年1月23日文化庁より「重要無形民俗文化財」に指定され現在に至ります。



古式十二段舞楽奉仕者御芳名

(敬称略)

獅 子	納 蘇 利	陵 王	二 の 舞	安 摩	色 香	太 平 楽	稚 児	樂 人 見 習	衣 装 方 見 習	樂 人	衣 装 方	舞 方	樂 頭 人	行 頭 方	樂 頭 方	行 頭 方	副 指 南 役	指 南 役
--------	-------------	--------	-------------	--------	--------	-------------	--------	------------------	-----------------------	--------	-------------	--------	-------------	-------------	-------------	-------------	------------------	-------------

栗内	鈴鶴	村鈴	嶋小	内鈴	西成	山山	大天	石橋	加藤	山柳	小沼	菅野	久川	中谷	宮尾	松木	鈴角	兩田	岩瀬	石角	野橋	鈴口	小川	鶴見	高木	白幡	天内	北藤	大島
田山	木見	松浩	木田	川藤	木尾	瀬本	本場	野橋	本藤	柳三	沼陽	野玄	川葵	谷柚	尾柚	木康	角秀	田公	瀬宏	角雅	橋章	口正	木俊	川見	高木	白幡	天内	北藤	大島
強智	聖祐	一裕	秀正	康満	辰一	易宏	壯三	陽晃	葵柚	柚康	秀公	宏雅	章正	俊富	智加	明恵	詞篤	信篤	篤信	篤信	篤信	篤信	篤信	篤信	篤信	篤信	篤信	篤信	篤信

献詠祭の斎行

曇り無き心で詠む

和歌をご神前に

四月十九日(土)、ご奉納いただいた和歌をご神前にお供えし、献詠祭を斎行いたしました。本年の兼題は、「和合」と「梅」で、氏子崇敬者の皆さまより作品を募りました。

和歌は、神代から伝わる文化として今日まで続いています。日本最古の和歌は、古事記にも記述があり、須佐之男命が櫛名田比賣の為に新しい宮殿を建てたときに詠まれた歌が始まりとされています。

少ない文字数に込める気持ちは言葉に魂が宿るとされる我が国の言霊信仰にも繋がります。

世代を超えて心に響き合う和歌の素晴らしさを感じて頂きたく存じます。

ここに、ご奉納いただきました作品とご芳名を掲載し、重ねて感謝申し上げます。

(順不同・敬称略)



兼題「和合」
“和み合う”ということは、神道の根幹である「和」の精神に基づく基本の在り方です

兼題「和合」

和合町、富塚町とふ新興の

街並み賑はひ台地へ続く

柴田 典昭

朝起きるとああいにおい

「いの所に来た」と早起きの夫

柴田 淑子

この星に戦いやまず恐ろしき

武器のみ増えて和合はいづこ

田内 弘子

見目はよし色ハ更なり味もよし

和合西瓜の小だ枕

重恵

佳きことを集めし杜の和合かな

白兔に語る神の声はも

山下 智之

是やまた間合いの子細々も無きに
能く和するかな舞い、楽、しょうが

田 敏 智志

拝殿に敬神生活の綱領を

唱ふる声の和合してゆく

樽松 靖彦

ふさわたる風と光に包まれて

今ひとたびの命と思ふ

原田 雅子

玉砂利を踏む音びく朝のそら

檜木と風は和して輝く

松本 由利

去年植えし土と和合し花桃は

寒気吹い込みさみどり生える

藤原 裕昭

いつまでも平和の続く世の中を

願いて思う静かな空に

山本 淳子

感謝してまことのこころでゆく道は

いつか和合の 明るい未来

牧野 百里子

ブラジリアン 自閉症の子 隣り合い

実りを筆に託す三月

神谷 浩美

和歌は神代から伝わる

日本のこころです

幼子を抱いて泣かるる仏頂面

好々爺の道けはしき父か

水野 信子

赤飯を炊きて隣へお裾分け

天皇陛下 六十五歳

清水美千代

山ゆるむ十二単に染める風

浮いているよな私とあなた

竹原 和子

山鳩の番今年も睦まじく

庭の水木の枝に留まれり

遠藤 若葉

春風はくわい

夕日はあか紅掛そらに暝のあお

色色の間に境はなし

伊藤 慶佑

ダンデムのペダルの呼吸が合つてきて

父と娘の春風がある

土屋 浩子

ウグイスの上手と下手とが木々の間に

あくことなきかに鳴さかわしおり

木村 翠

みすずかる信濃の国の道の辺に

和合の像のほほえみ静か

海瀬安紀子

気負わずにじやんだらりんを地で

ゆけば

笑みて和合めり新参もまた

菅沼 英子

一、兼題「梅」

春風に残りの梅の実背を押され

仲良くおちて集う片隅

河野 久子

散り染めし梅花の香り惜しみつつ

又の逢瀬を声かける朝

河野 久子

いち早く春のよろこび届けます

まあるい笑顔の梅の花より

牧野百里子

雲ひとつなき青空よ建國祭

子らの笑顔に梅花はころぶ

牧野百里子

戒名に梅花の文字がある人の

咲かせた五福満ちてゆく春

守谷 弘美

昨年こぞよりも二週遅れの眩しきの

つと隼はやぶさして枝垂梅咲く

柴田 典昭

梅園で「アーチの花は梅の花!」

学校辞めて知ること多し

柴田 淑子

梅干しとたく庵さえもこの世から

少なくなりし道の駅

重恵

紅白の梅を揃えて甕に挿す

母の弓手の健やかにあれ

遠藤 若葉

ほのほのと放射する紅香を立てり

希望のやうに枝垂れ梅咲く

小笠原小夜子

紅咲きの梅の蕾のふくらみて

孫の便りは我を労う

小笠原靖子

細き幹に百年を超す歳月を

支へて凜と白梅の咲く

樽松 靖彦

歳ごろにホオゴキユブリと鳴く聲の

未だ聞こえずはな散りぬるに

田鋏 智志

うららかな風の和らぐ令月や

ふふめる梅に鶯鳴くも

山下 智之

青軸の梅のつばみの笑みそめて

牧に双子の山羊生まれたり

古木さよ子

いく年も実らぬ庭の紅梅を

つゝみてあわさ春の月かげ

勝田 洋子

本日は他に客なし梅の宿

湯舟にそつと我を沈める

海瀬安紀子

これは梅これは桜子らに言う

じゃああれは梅？あれは桃

伊藤 慶佑

朝市でキャベツと共に買った春

リビングに咲く梅と菜の花

田中 博美

麗しく紅梅一輪初見えて

命七十五日ほど延ぶ

清水美千代

子の二十に植えし白梅今日咲かむ

花をさがして寒を降り立つ

原田 緑

満開の梅の花びらちらほらと

風に吹かれて踊っているよ

山本 淳子

うすべにの梅咲き初めて遠州の

まさらぎの空いよいよ青し

松本 由利

ゆたゆたとしだれ梅咲くまほろの地

花びら舞いて春風つかむ

藤原 裕昭

空色に梅の花咲く練り切りを

ふはり味はひ待つは立つ春

伊藤八重子

義母残し白き実梅の花は咲く

世の醜き争い知らず

田内 弘子

梅二輪伐採する手留まりて

古木に香る微なる春

遠藤 愛子

あはあはと明かり点せし梅の花

緑ます草中に散りけり

山田 文好

遅れ咲く白梅に吹く春風に

巣ごもり虫の目覚めのけはひ

内藤 祥子

ほつほほと固き蕾がほころびて

白梅さきて百鳥を呼ぶ

水野 信子

世代を超えて心に響き合う敷島の道



兼題「梅」今年の拝殿前の梅は、▲少し遅めの開花でした(3月2日撮影)

清浄な灯りをご神前に

大前を照らす御神燈献燈

清浄な灯りをご神前に

本年の例祭におきましても多くの氏子崇敬者の皆様より、御神燈と雪洞を献燈いただきました。

灯りには元来「火」がつきもので「火」は清め祓いに用いる清浄なものです。

また私たちの祖先は「火」そのものが諸霊を呼び込むものと考えてきました。

大前に灯りをお供えることは、照明としての意味と、ご神域を清浄に整える二つの意味があります。

御芳名

(敬称略・順不同)

(株)阿部	栃木県	(株)長谷川製作所	森町工場
(有)浦野モーターズ	森町	常陸神宝(株)	茨城県
大石靴店	森町	みどり写真館	森町
大沼建設(株)	森町	(有)宮崎モーターズ	森町
岡野建設(株)	森町	(株)エビスシマダ	森町
(株)小倉商店	森町		
春日屋青果店	袋井市	安間製箸(株)	森町
京都奉製(株)	京都府	正光建設(株)	森町
倉見建設(株)	森町	(株)村上社寺工芸社	森町
(株)三愛工芸	茨城県		
(株)三永	森町	(有)破魔矢奉製所	兵庫県
(株)松鶴	袋井市		
(有)デザインオフィス	袋井市	(株)丸井紙店	神奈川県
エム・エス・シー	山梨県		

神賑わいの灯り雪洞献燈

御芳名

(敬称略・順不同)

小国ことまち横丁	(株)鈴木長十商店	あさひな(株)	(株)仲孝
ことまち夢小径	(株)鈴木長十商店	(有)朝比奈造園	(株)ダイゴ
小国ことまち横丁	(株)鈴木長十商店	(株)鈴木建築	(有)北島電気工業
(株)ネクスコーポレーション	森のどうぶつ病院	長岡香料(株)静岡工場	(有)ムラマツ住建
(株)久米吉	神宏クリーンサービス(株)	サンフード機販(株)	酒の田中屋
(有)太田茶店	ITAMAE遊穂	静岡工場	(有)インテリア村松
松田歯科医院	三木の里カントリークラブ	西村医院	マリミ塗装
(有)アマノ	アパルト管理(同)	シャトー中川	木創工房 森童
(有)大井製作所	平松建築(株)	金山化成(株)	高木建築
シーネックス(株)	鳥骨鶏苑	シズオカ工場	吹きガラス工房
(有)オーキッド	大同DMソリューション(株)	ヤスマ(株)静岡工場	フロレスタファブリカ
あしかび	静岡工場	(株)山本環境整備	ロイヤルワイヨ
遠州みもろ焼	(株)ザ・フォレスト	カネトヨ(株)	(有)萩原造園
フナギテッケン(株)	カントリークラブ	(株)ツカモト	鈴伍酒店
(株)ジェイエイ	(有)富士鉄工	(株)やまひろ関東工場	ヘアーサロンタカギ
遠中サービス	北嶋靴店	(株)鷹の友誠	森のびようしつ
(株)一宮	遠州森鈴木農園(株)	松浦製茶(株)	(有)多木建設
加藤修・孝尚事務所	ヤマハ発動機(株)	(株)八幡屋茶舗	一ノ宮郵便局
カルト(株)	森町工場	(有)政和電気	入鹿ハム

(株)アイムファイン	鈴木土建(株)
(有)エムケイデンキ	ビューティサロン
(有)アカネ造園土木	タカヤナギ
メイクアップ(株)	
(株)旭自動車	高柳米穀店
(有)北島電気工業	(有)渡辺防水工事
(有)ムラマツ住建	(有)すずき工業
酒の田中屋	(有)ヤマニシ建築
(有)インテリア村松	遠州中央農協
マリミ塗装	園田支店
木創工房 森童	(有)守屋モーター
高木建築	(株)関東甲信クボタ
吹きガラス工房	山本フミコ美容室
フロレスタファブリカ	美容室たけしの店
ロイヤルワイヨ	(有)栄産業
(有)萩原造園	(有)金原石油
鈴伍酒店	(株)家本工務店
ヘアーサロンタカギ	建機工業(株)
森のびようしつ	鈴木美容院
(有)多木建設	東京理容
一ノ宮郵便局	サイクルショップ
入鹿ハム	豊一商店
花ぎようざ	(有)石田茶店
(株)アコルトパッケージ	(有)鈴木次郎商店
乗松刃物	遠藤かほる
楽酒処 駿	胡祉斎
工房HAL	
(有)共栄土建	
(株)日本温装工業	
(株)袴田製作所	
森町工場	
百々や	
中井商事(株)森工場	
日本工機(株)	
暁雲窯	

8月24日(日)
開館!!

— 鈴木正彦記念 —



土鈴館開館のご案内

素朴で優しい土の音色と造形 古より「鈴」に寄せられた「日本の心」を辿る

当館は、土鈴コレクターとして高名な和洋女子大学名誉教授(国文学・民俗学)鈴木正彦先生が、永年の学術研究の傍らに蒐集された土鈴一万三千三百余点を所蔵しています。

現在全国で開館している土鈴展示施設の土鈴所蔵数としては日本最大級で、作家作品が多いことが当館の特徴の一つでもあります。

「折りと土鈴」をコンセプトに、これらの貴重なコレクションを中心に順次公開し、古より「鈴」に寄せてきた「日本人の心」に触れ、次世代へ残していくことを目的とし、展示を実施しています。

館内の写真撮影やSNSの投稿は自由となっていますので、当社にご参拝の折にはぜひお立ち寄りいただき、ここでしか見ることのできない、多彩な土鈴の世界をお楽しみください。



多彩な「土鈴」
～祭具から作家作品まで～

土鈴とは、粘土を型に入れて成形し、中に玉や小さな土塊を入れて焼き上げ、振るとカラランカランと澄んだ音色を響かせる鈴のことです。

その歴史は縄文時代にまで遡り、古くから魔除けや厄除け、招福祈願などの意味を込めて神社や寺院で授与される他、祭祀の際の祭器・呪具として用いられてきました。後に、芸術的な価値



▲テレビ静岡「ただいまテレビ」による独占取材(6月27日)



色付けが鮮やかな中島一夫先生作品▲



▲昭和の菓子、タバコ、マッチ等の箱絵をかたどった土鈴のシリーズ



▲地域の特色を活かした土鈴の数々▲



値も高まり、作家作品も多く作られることになり、全国的な広がりを見せる」とともに、地方ごとの独自性が確立されていきました。このように土鈴には、古来より驚くほど多様な意味や用途が見られます。

その音色からは、私たち日本人の祈りの心を思い起こさせるとともに、どこか心がホッとするような懐かしい気持ちにもさせてくれます。また、造形からは干支や時代を風刺するものなど

独特な世界観があります。

開館にあたりご理解を賜りました、ご子息の鈴木岩弓先生はじめ、分類・調査にご協力いただきました國學院大學神道文化学部教授加瀬直弥先生・神戸土鈴友の会吉田満会長・正面の絵画「花よい」を寄贈下さった画家の中野日和様に心より感謝申し上げます。

小國神社 干支土鈴について

令和二年（二〇二〇）鈴木正彦コレクションのご奉納を期に、当社の御祭神大己貴命の神使である鼠にちなんだ「子年」より、一年の平安を祈念し「小國神社・干支土鈴」の授与をはじめ、現在、正月の風物詩としてご参拝の皆様にご親しまれています。

館内には、現在までに授与した「小國神社・干支土鈴」も展示中。



プロフィール 民俗学・国文学 鈴木 正彦

- ・大正11年（1922）4月21日岐阜県中津川市に生まれる。國學院大學にて民俗学の大家折口信夫に師事。
- ・大東亜戦争終戦後、國學院大學学部研究科（大学院）にて折口信夫の助手を勤め、昭和25年（1950）に和洋女子大学助教授、教授を経て、和洋女子大学名誉教授に就任。
- ・「土鈴博士」とも、「昭和の本居宣長」とも呼ばれ、個人で一万五千点以上の土鈴を蒐集、一部を和洋女子大学の文化資料館へ寄贈し、残りの大部分を小國神社へ奉納。
- ・鈴の愛好家が集まり昭和56年（1981）に発足された「語鈴会」の発起人・会長に就任。神戸土鈴友の会顧問に就任。
- ・令和2年（2020）11月27日他界享年98歳。



古代のまつりと土鈴

～使い方からわかる『変わらぬ効用』～

國學院大學神道文化学部教授・別科長 博士（神道学）

加瀬 直弥

國學院大學 神道文化学部 神道文化
学科教授の加瀬直弥先生には、お忙し
い中土鈴館開館に際し、当館が所蔵す
るコレクションの分類と調査にご協力
いただきました。

今回、神道学などの多角的な知見か
ら、「古代の祭り」と「鈴」の関わり
について、寄稿文をお書きいただきま
した。日本人の祈りの心と古代祭祀に
おける鈴の効用について解説いただき
ました。

数多な土鈴を小國神社に寄贈された
国文学研究者鈴木正彦先生は、古代の
鈴の効用を二点指摘する。ひとつは危
害からの守護、もうひとつは呪的効用
である（『日本の土鈴』徳間書店）。

ひとまず後者の鈴の呪的効用がうか
がえる例、とはいってもある程度確か
な例となると、宮中のまつりの品に関
心が及ぶ。恒例であれば、宮内省内の
神社に対する二・十一月の園韓神祭、
そして、十一月新嘗祭前日の鎮魂祭で
ある（『延喜式』）。ともに、対象とな
る祭神に供えるための品である。

これらまつりの目的を確かめると、
鎮魂祭であれば、天皇の身体に「御魂」
すなわち活力をまとわせるという最終
的な目的が存在するが、園韓神祭にそ



達磨・大黒天・地藏など
信仰にまつわる土鈴 ▲



「鈴の宮」大阪の蜂田神社で、
占いに用いられた土鈴 ▲



鈴木正彦先生の米寿祝に送られた
神楽鈴の土鈴 ▲



神楽鈴を用いて舞う神子舞 ▲



土鈴を調査・選別する加瀬先生 ▲



英彦山がらがら

八百年の歴史を持つとされる英彦山がらがら。魔除け、虫除けの霊験がある



般若心経陶鈴

森山焼きの陶鈴で、戦地へ赴く夫の無事帰還を願って作られた作品

さて、これらのまつりで供えられた鈴の材質は不明である。ただ、他の臨時のまつりを参考にすれば、金属製であった可能性が高い。古代の朝廷は耐久性の高い品を神に供える傾向があっ



神への丁寧な応接をきわめた結果が御巫の奉仕であるとするならば、それに伴い用意される鈴について、少し想像をめぐらせば、神に対する特段の丁寧な姿勢をあらわす品、という考え方ができよう。そして、延いては、神の力を得る上で有効な品、ともいえる。得られた神の力とは、鈴木先生の指摘する「呪効効用」に他ならない。

れない。では、まつりのおこない方はどうかとなると、こちらは重要な担い手が共通する。御巫である。古代宮中の御巫は幾種類があったが、確認できる中でいえば、童女ないし童男が任じられる定めであった（『延喜式』）。当時、宮中に限らず、いくらかの神社においても、神の近くでまつりに携わる立場にあったのが、児童であった。宮中の場合、鎮魂祭であれば、御魂をひきつけ、園韓神祭であれば、まつりの中心的な担い手となる定めであった（『貞観儀式』）。その役割は軽くない。



▲所狭しと並ぶ土鈴 選別には2ヶ月近くかかりました

たことも、そうした実態を推測させる。金属製の鈴は、作成技術や材料の特色上、権威性を帯びた品に位置づけられるが、神に対する品としては、それでも問題はない。人知を超えた大きな力に対する敬意のあらわれといえるからである。

ここで示したまつりの鈴は、「人が実際に振ること、神の力を得ようとする」といったような、一種の交信の道具としては用いられていない。あくまで、所持するに最善の品としてであり、人が個々に、「自らの感情に働きかけるために鈴を振る」との同様の用い方を想定していたと考えられる。後代の土鈴の楽しみ方に通底しよう。

プロフィール

國學院大學神道文化学部
教授・別科長
博士（神道学）

かせ なおや
加瀬 直弥



〈略歴〉

昭和50年 神奈川県生まれ
平成15年 國學院大學大学院
文学研究科博士課程後期単位取得
平成18年 國學院大學着任
平成25年 神道文化学部転属
令和3年 現職

〈著書〉

『古代の神社と神職』 吉川弘文館 平成30年
『平安時代の神社と神職』 同上 平成27年
『日本神道史 増補版』 同上 令和3年（共著）



宮代神饌田御田植祭の斎行

くむかしの手ぶりをそのままにく

令和七年五月二十五日(日)、当社宮代神饌田において御田植祭を斎行いたしました。当日は早朝の小雨も上がり、時折日が差す晴れやかな天候に恵まれました。奉耕者の内山博文様、森町長太田康雄様をはじめ、五十名の皆様にご参列を賜り、五穀豊穡への祈りを込めて古式に則り神事を執り行いました。

また本年は北島恵介様のお力添えにより、「延宝の記録」の記述に基づき、神輿に見立てた祠に葉菖蒲を飾るといった新たな試みもなされ、さらに古儀に近づけた形となりました。

◆御田植祭の歴史

稲作の起源は神代に遡り、お米は神さまからの大切な授かりものとして、我が国の主食となってきました。当社の御田植祭の歴史は古く、現存する最古の記録「延宝の記録」にもその様子が記されています。平成十一年にこの記録や伝承をもとに復興され、以来、神社にとって重要な祭典の一つとして毎年斎行しています。



▲宮司祝詞奏上



▲五月男、五月女役として奉仕される旭が丘中学校有志のご生徒とALTの先生方



▲「延宝の記録」の神輿の記述をもとに再現された祠



▲水口呪文を奏上する森町歴史伝統文化保存会副会長 河合宏和様



▲50名のご参列の元、御田植祭が執り行いました

◆民俗芸能公開大会の開催

本年の御田植祭は、森町歴史伝統文化保存会による「第十七回民俗芸能・民俗行事公開大会」も併せて実施いたしました。この公開大会は、町に伝わる伝統行事を記録や伝承に近い形で広く公開するという文化保存の趣旨のもと開催されています。

地元旭が丘中学校の有志生徒の皆様に加え、町内のALT（外国語指導助手）教員の皆様にもご奉仕いただきました。参加者は早乙女（さおとめ）・早乙男（さおとこ）として、巫女の鈴振りに合わせて苗を一つひとつ丁寧に植え付けていました。

◆お米は神さまからの大切な授かりもの

稲穂は我が国において、斎庭の稲穂の神勅に示されるように、神様からの授かりものとして大切に扱われてきました。

現代においても、主食として私達の食生活には欠かすことのできないものであると同時に日本人のアイデンティティを示す文化的にも意義深い食料です。

本祭典と公開大会を通して、伝統文化の担い手を育成しつつ、大切なお米について深く知る機会となれば幸いです。

一宮花しょうぶ園



令和七年 一宮花しょうぶ園開園報告

令和七年五月二十七日より六月中旬にかけて、当社境内の一宮花しょうぶ園を開園いたしました。園内には約八十種八万本の花しょうぶを植栽し、本年も多くの方にご来園いただきました。開花は例年より一週間ほど遅れましたが、江戸系、肥後系、伊勢系の各品種が、紫や白、絞り模様など多彩な花色で順次咲き揃いました。

古来より菖蒲は邪気を祓う植物とされています。その清らかな花姿は厳か



な境内にふさわしい、凜とした佇まいで、園内を散策される方々はゆつくりと、静かな園内で初夏の風情を感じておられました。

●ご来園者の声

ご来園の皆様からは「初めて知りましたが、美しい庭園で心が落ち着きました」「見ごたえがあり、参拝と合わせて充実した時間を過ごせました」といったお声をいただきました。県内外からお越しの方も多く、参拝後の憩いの場として親しまれています。

●癒やしの斎庭で心安らぐひとときを
四季折々の自然に恵まれた「癒やしの斎庭」において、花しょうぶが織りなす景観が、参拝者の皆様にとって日々の喧騒から離れ心落ち着く空間として、今後多くの方に愛されますよう維持してまいります。
来年の開園につきましては、改めてご案内いたします。



一宮はなしょうぶ園公式キャラクター はなしょうぶくん ▶



神々とお祭り

私たちの祖先は、かみまつ神祭りのなかから生き方を学び信仰の礎としてきました。

また、古くからの伝承や歴史をふまえ、豊かに暮らす知恵を生活のなかに生かし、神々と生活をともにしてきました。

毎年同じ時期にお祭りが繰り返し行なわれ、私たちはその中で信仰や文化をかたちづくってきました。

「お祭り」とは、

日本の伝統にもとづいて、神々に対する祖先のこころを今に伝える大切なかたちです。



社頭動静

サハグループ 應本様ご一家の御参拝

◆タイ・シラチャ

小国神社創建をつなぐ縁

令和七年三月二十九日(土)、タイ王国の大手企業サハグループに属する、サハ・パターナ・インターホールディングカンパニーの應本幸和様とご家族がご参拝になりました。

應本様は、タイ王国におけるシラチャ小国神社創建事業に際し、関係企業との調整役として中心的な役割を担われ、多大なるご尽力を賜りました。應本様ご一家の皆様の益々のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



▲應本様ご一家

桜詣の実施

◆癒やしの斎庭が春爛漫に

三月二十二日(土)から四月六日(日)の間、「桜詣」を開催いたしました。期間中は、尺八・箏曲の奉納演奏も行われ、境内に美しい音色が響きました。

また、茶道の大須賀社中・岡山社中の皆様による野点の呈茶のご奉仕や、静岡県茶業会議所様による煎茶の振る舞いが行われ、ご参拝の皆様は思い思いに春の訪れを楽しんでいました。

同日には、フジドリームエアラインズ(FDA)様による静岡空港のPRブース、神棚の里(静岡木工)様によるモダン神棚の展示・販売やワークショップも開催し、いずれも幅広い年代の方々から好評をいただきました。



▲点茶会も大勢のご列席をいただきました

かん 勸学祭の斎行

◆氏子地域の新生を祝う学業成就祈願

四月五日(土)午前十一時、勸学祭を斎行いたしました。氏子地区内の小中学校新入生二十一名とご家族様にご参列いただき、学業成就と通学安全を祈願しました。

普段聞き慣れない「勸学」という言葉ですが、学問を勧め励ますことを意味します。

祭典では、子どもたちが無事に入学の日を迎えられたことを大神様にご奉告申し上げ、祭典後お神札と記念の品をお渡しいたしました。

当日は、緊張した面持ちの児童、生徒らの真剣な眼差しに大神様もさぞ感心されたことと思います。

今後とも、更なるご加護のもと、新しく始まった学校生活の中で、大いに学び充実した日々をお過ごしください。



▲拝礼をする新小学一年生のお子様方

ヤ マハ発動機株式会社 海外グループの研修会開催!!

◆ものづくりの地で

日本の精神文化に触れる体験を!!

四月八日(火)、ヤマハ発動機(株)の海外グループ十六か国の社員研修会を実施いたしました。当日は、権宮司が日本の歴史や文化、神道におけるリジェネラティブについて講話を行いました。ヤマハ発動機(株)様は、森町を拠点に、E-BIKEのドライブユニットを製造し、地域に根ざした「ものづくり」と「感動」を創造してきた会社です。技術革新の原点にある我が国の精神性などに触れ、参加者の皆様の充実した表情が印象的な研修となりました。引き続き、地域に根ざした国際交流に取り組んでまいります。



▲神職の作法に合わせ参拝をする皆様

旭

が丘中学校新入生体験学習!!

◆仲間と絆を深め、

地域の歴史に親しむ一日に

令和七年四月二十二日(火)、森町立旭が丘中学校の生徒八十二名が当社へフィールドワークに訪れました。当日は、生憎の雨模様でしたが、生徒たちは、元気に歩いて神社を訪れました。

研修室では、神職が神社のご由緒やご祭神について、地域における神社の歴史などを説明しました。生徒の皆様は熱心に耳を傾け、神社の歴史や地域との関わりについて学ぶ姿を頼もしく感じました。

子宝という言葉が示すように、将来を担う子どもたちは『国の宝』です。

今後とも地域社会における教育やコミュニティ醸成の一助となるよう努めてまいります。



▲質問コーナーで、積極的に質問する生徒たち

「産学官金」

特別ツアーの実施

◆ローカル鉄道で巡る遠州の特別な旅

令和七年四月二十五日(金)、産学官金(企業・大学・行政・金融機関が連携し、研究開発から技術実用化、事業化、地域振興までを一体的に推進する仕組み)の事業として天竜浜名湖鉄道(株)、浜松いわた信用金庫が主催する特別ツアーが実施されました。

天竜浜名湖鉄道は、静岡県西部を結ぶ景観豊かな路線で知られています。沿線に点在する貴重な文化観光施設やフラワーガーデンを巡るこの特別なツアーには、遠く兵庫県芦屋市からお越しの方もいらっしゃいました。

正式参拝の後、宮司から当社の由緒や遠州の地に根差す信仰について説明を受けると、皆様は熱心に耳を傾け、遠州の歴史と文化への理解を深められていました。



▲宮司と歓談するツアーご参加の皆様

端

午祭の斎行

◆子どもたちの無事の成長を願って

令和七年五月五日(月)、ご神域で採取した葉菖蒲と柏餅をご神前にお供えし、端午祭を斎行いたしました。令和六年一月一日から十二月三十一日の間、当社で命名を受けたお子様二十一名とご家族様にご参列いただき、無病息災と健やかな成長をお祈りいたしました。

牧之原市からご参列された田形安弘様は、「兄弟三人とも小國神社で命名をしました。無事健康に育ってほしいと、上二人の分も一緒に祈願しました。」と語られていました。

本年も季節を告げる伝統神事として、静岡新聞や中日新聞等にも取り上げられました。



▲ご参列された田形様ご一家

リビングカルチャー講座の開催

◆神職の案内で巡る遠江国宮参拝体験

五月十日(土)、リビングカルチャーセンター主催の特別講座「神職の案内で巡る遠江国一宮小國神社」が開催され、十七名の方々が参加されました。リビングカルチャーセンターは、静岡市葵区伝馬町に拠点を置く生涯学習施設です。

当日は権宮司が講師を務め、正式参拝の後、神道についての講話を行いました。講話の中では、神さまへの感謝と人々への思いやりの心を生活の指針とする「敬神生活の綱領」を参加者と共に声に出して読み上げ、綱領編纂の歴史的経緯や文意などを解説しました。今後も様々な機会を通じて、和の心の基である「神道文化」をお伝えしてまいります。



▲敬神生活の綱領を音読する参加者



▲ 静岡縣護國神社本殿裏手の側溝を清掃する青年会員

静 岡県神道青年会英霊顕彰事業のご奉仕を終えて

◆小國神社 権禰宜 堀川達徳 報告

五月十二日(月)、静岡県神道青年会会員として英霊顕彰奉仕事業に参加いたしました。

終戦八十周年記念事業の一環として行われた静岡縣護國神社境内の清掃奉仕では、台風により土砂が堆積していた本殿裏の側溝の溝さらいを実施しました。会員一同と共に汗を流しながら、護國の英霊のお近くで奉仕ができましたことは、貴重な経験となりました。

今後もこのような顕彰事業に積極的に参加し、神職としてまた、一人の国民として誠心誠意ご奉仕していきたいと思っています。

個 展「神々の姿 この時代から」の開催

◆エアブラシ一本で描く神々の世界

令和七年五月十五日(木)から十八日(日)まで、研修室にて野田真一様のエアブラシアート展「神々の姿 この時代から」が開催されました。

野田様は、これまでも当社で個展を開催し、昨年には大己貴命を豊かな感性で描いた「大己貴命図」をご奉納いただきました。

展覧会では、エアブラシで神々の姿を現代的な視点で繊細に表現された作品を展示し、県内外の多くの人々が訪れていました。

野田様の今後の更なるご活躍を心よりお祈り申し上げます。



▲ 静岡県議会議員 伊藤和子様 (左) 袋井商工会議所会頭 豊田浩子様 (中央)



▲ 小柄でかわいらしい花が咲きます

小 國神社振興会奉仕事業 「ヤマアジサイ奉納展示」

◆可憐なヤマアジサイに季節を感じて この度、小國神社振興会事業、「氏子十人展」の一環として、ヤマアジサイの展示会を実施いたしました。

本展は、振興会役員の土屋多弘様が、長年にわたり丁寧に栽培されてきたヤマアジサイを、多くの参拝者の皆様にご覧いただき、美しい四季の移ろいを感じていただくことを企画されました。

紫陽花は、古くは万葉集にも歌われ、現代では雨と併せた描写が季節を伝える、日本古来の植物です。

ご参拝の皆様やカメラマンの皆様からは、可憐で美しい紫陽花はご神域の景観に良く馴染み、風情を感じたと話されていました。

もりもりマーケット開催!

◆森町出身の女子が提案する 『森の暮らし方』

五月二十五日(日)もりもりマーケットが、みもろ焼き陶房前駐車場で開催となりました。

第十回目となるこのイベントは、森町に店を構える土屋製菓の今泉京子様たちが中心となり、『森町の楽しさ』を伝える人気のイベントです。当日は拝殿で正式参拝の後、約二十二店舗が軒を連ね、健康に配慮された食品、飲み物や、こだわりの雑貨などが販売されました。

天候が心配されたものの、多くの来場者様が訪れ、ご神域は終日賑やかな雰囲気になりました。



▲ 買い物を楽しむ参拝者の皆さま

久米吉によるご浄財のご奉納

◆大神様への感謝と真心のお供え

この度、(株)久米吉 代表取締役 倉島正三様より、「こんにゃくの日」にちなみ、五月二十八日(水)にご浄財をご奉納いただきました。

倉島様は、門前明神通りで、安政元年創業の老舗こんにゃく店・(株)久米吉を営む傍ら、地域活性化にも熱心に取り組まれ、明神通り振興会役員としてもご尽力されるなど、地域社会の発展にも貢献されています。

ご奉納いただきましたご浄財は、大切に活用させていただきます。

倉島様のご厚志に、心より感謝申し上げます。



(株)久米吉 倉島正三様▲

ヤマハ発動機(株)新入社員研修

◆古の教えと現代の技術、

その調和を学ぶ

六月三日(火)、サステン工業(株)協力のもと、ヤマハ発動機株式会社の新入社員研修が当社で行われました。

サステン工業(株)が運営するエルドラード森町は、ヤマハの電動アシスト自転車「PAS」や「YPJ」シリーズを専門に取り扱う販売店です。坂道試乗コースを完備し、地域の皆様に森町が誇る電動アシスト自転車の魅力をお伝えしています。

当日は権宮司による神道講話や境内案内を行い、新入社員の皆様は熱心に耳を傾けておられました。

今回の研修が、社会人生活の糧となれば幸いです。



▲新入社員の皆様方と

セルコ(株)様よりご浄財の奉納

◆創立六十周年の佳節にあたり

六月十二日(木)、永年に渡り厚い崇敬をいただいている浜松のセルコ(株)代表取締役 西川和宏様より、創立六十周年を記念しご浄財と同氏の著書「火災予防と防災業としての使命」のご奉納をいただきました。

セルコ(株)様は、浜松を拠点とした消防・防災設備など、高い技術力と信頼を持つ総合設備企業として知られています。

ご奉納いただいたご浄財は、当社の維持管理等に大切に使用させていただきます。

セルコ(株)様のさらなるご発展と、西川和宏代表取締役様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。



セルコ株式会社代表取締役西川和宏様▲

名鉄観光バスツアー

◆あじさい寺から当社まで

ウォーキングでご参拝

六月十四日(土)、名鉄観光バス主催のハイキングツアーが実施されました。極楽寺(あじさい寺)から当社までのコースで、二百八十四名の参加者をご参拝になりました。

今回のコースは極楽寺(あじさい寺)から当社までの約五キロメートルの道のりです。参加者の皆様はあじさいを鑑賞された後、梅雨の季節の中ウォーキングを楽しみながら、当社まで参拝に來られました。参拝後は見頃を迎えた一宮花しょうぶ園を鑑賞され、癒やしの斎庭の初夏を満喫されました。あじさいの名所から花しょうぶ園まで、季節の花々に彩られた遠州の自然と歴史を満喫されるツアーとなったことと存じます。



▲雨天の中、軽快な足取りでご参拝に來られていました。

夏越大祓式の斎行

半年の罪穢れを清め、夏を健やかに迎える神事

六月三十日(月)午後三時より、約六〇名のご参列のもと、夏越大祓式ならびに茅の輪くぐり神事を斎行いたしました。

本格的な夏の訪れを前に、この半年の間に知らず知らずのうちに身についた罪穢れを祓い清め、残りの半年を清々しく健やかに過ごせるよう祈りました。

大祓式の後には、神職に続いて茅の輪くぐりを行いました。皆様、厳かな面持ちで神事に臨まれる姿が印象的でした。



600名以上の方にご参列いただきました▲

日々の「罪穢れ」を祓い清める「大祓式」



『祓えつ物を八針に取り裂く』▲
木綿の布を切り裂いて、災いを祓います

大祓式は六月の晦日と十二月の大晦日に行われ、私たちが日常生活を送る中で、知らず知らずのうちに心や身体に溜め込んでしまった「罪」や「穢れ」を祓い清める、宮中行事に由来する大切な儀式です。「罪」とは、単に法律や道徳に反する行いだけでなく、古くは疫病や天災など、人々の平穏な暮らしを脅かすものものことも指しました。一方の「穢れ」とは、不浄なものに触れた状態のことです。

大祓式では、まず人の形をした紙「人形」に、自身の罪穢れを移します。

そして、神職が「大祓詞」という特別な祝詞を読み上げることで、人形に移された罪穢れを祓い清めます。この儀式は、心身を本来の清らかな状態へと立ち返らせる、いわば「心をリセットする」、というような意味合いを持っています。

夏の風物詩「茅の輪くぐり」

夏の風物詩としても親しまれる茅の輪くぐりは、残り半年の疫病除けの願いが込められた神事です。その起源は奈良時代初期に編さんされた「備後国風土記逸文」に求めることができます。

「釈日本紀」より「備後国風土記逸文」意識

昔、旅をしていたスサノオノミコトが宿を探していました。裕福な家の巨旦(たんと)将来は宿を断りましたが、その兄で貧しい暮らしをしていた蘇民将来は、手厚くもてなしました。

大変喜んだスサノオノミコトは、「これから先、もし疫病が流行したら、茅(ちがや)という草で編んだ輪を腰につけなさい。そうすれば病を免れることができるだろう」と教えました。

のちに疫病が流行した際、教えを守った蘇民将来の一家だけが助かったといいます。



▲静岡第一テレビ



▲中日新聞



この逸文にちなみ、茅の輪をくぐることで災厄から身を守り、夏の間の無病息災を祈願する神事として、今日まで受け継がれてきました。

各メディアにも取り上げられました

静岡新聞▶



桜詣 静岡県茶業会議所様による ▲
川根茶のふるまい (3月29日)



全国一宮合殿社の例祭 (4月8日) ▲



献茶祭の斎行 本年も静風流森本湖堂様 ▲
天野智堂様にお点前のご奉仕を
いただきました (4月15日)



新しくなっただいこくさまの看板 ▲
(6月22日)



今年も多くの皆様に、七夕の短冊へ ▲
願いを綴っていただきました (7月7日)



シャクナゲの開花 (4月10日) ▲



クマガイソウの開花 (4月16日) ▲



久米吉のこんにやくは、 ▲
当社の月次祭にもご奉納
いただいています

伝統が息づく
唯一無二のこんにやく専門店
明神通りで、参拝客の心と食を魅了し続ける老舗が、こんにやく専門店「久米吉」です。
敷地内に併設された食事処「お直り処 久米吉 宮前田楽」では、全国でも稀な「こんにやく専門ランチ」を提供し、県内外でも人気を博しています。
地元産を含む厳選された原材料を使い、時間と手間を惜しまない独自の製法で引き出される味わいは、職人の技が光る逸品です。
明神通り振興会役員としても活躍される代表取締役社長の倉島正三様は、「明神通りを盛り上げることで、神さまへの恩返しができたら。」と語られ、『高い専門性を備えた日本一の商店街』を目指し、門前づくりに尽力されています。

久米吉の紹介



新生児選名・命名について

生を受け、生を伝える 「人の一生」

様々な節目を迎えるとき、神さまへ「感謝」と「ご奉告」を行うことは、古来より受け継がれた日本の文化です。

当社では、日本の伝統文化に則した新生児にふさわしい名前を選名いたします。また、ご家族で考えられたお名前候補の中からご相談の上、選名いたします。

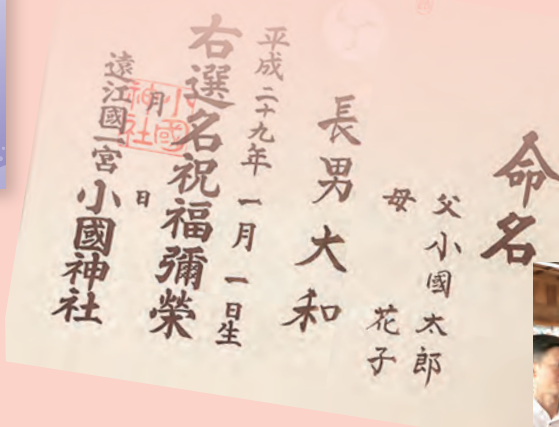
お名前が決定の後、お子様の無事成長と一生の幸せをご神前でお祈りし、お神札、朱印を押印した命名書を授与しております。

初穂料 一〇、〇〇〇円也

命名

令和七年三月一日、
令和七年七月三十一日

鈴木 杜弥	磐田市	落合 理翔	磐田市	野澤 和	湖西市
大津喜一朗	磐田市	大重 秀彰	袋井市	川島 琉花	千葉県
村松 諭弥	森町	篠原 陸兎	愛知県	八幡 旭飛	浜松市
村松 季弥	森町	伊藤 誉	浜松市	石川 天晴	袋井市
大村 風	藤枝市	林 あかり	森町	花田 歩香	浜松市



お申し込み方法など詳しくは、小國神社 選名・命名奉告で検索

小國神社 選名・命名奉告

検索

当社で命名奉告をされた皆様には
5月5日の端午祭へご案内いたします▶

神社を知れば日本がわかる “まつりの国、日本”



イラスト:小國神社ものがたり
作:たたら なおき

鏡 (かがみ)

神社参拝の折、何度か鏡を見たことがあるという方も多いのではないのでしょうか。

鏡は姿身として現在でも生活の必需品として使用されていますが、その材質・形状は様々で、古くより万物を映ずる神秘感より祭祀の用具として宗教的な意味をもって扱われてきました。

時代によって用途は様々に変化したものの、日本神話に代表される、三種の神器のひとつ「八咫鏡」(やたのかがみ)のように、古代祭祀において非常に重要な位置づけにありました。ご神体や御霊代(みたましろ)として、さらには奉納品としてなど、勾玉や

剣とともに非常に広く神聖視されていたことがわかります。

古より神さまは山や岩、樹木など自然そのものに宿ると考えられていました。現在でも自然をご神体とする社殿を持たない神社は日本各地で窺い知ることができます。ご神体という語は、平安中期ごろに用いるようになったと伝えられており、神霊の憑ります物体の意であると考えられています。時代の変遷とともに変化を遂げながら人々の間で神秘性を保ったまま継承され、また常に生活のそばにあるもの。物に対する人々の温かみを感じます。

これからの 行事

12月



第21回写真コンテスト入選作品
「家族の思い出」(相羽 強)



師走大祓式



12月31日午後3時より、師走大祓式を斎行いたします。下半期の罪穢れをお祓いし、清々しく新たな年を迎えることができます。どなたでもご参列ができますので、ご家族皆様でご参列下さい。



疫神齋

11月19日午後4時より、疫神齋を斎行いたします。当社に古くより伝わる特殊神事の一つです。300年以上前の古記録『延宝の記録』にも記載された、疫神鎮送の祭祀です。

つき なみ さい

月次祭ご参列のご案内

「つきなみ」とは毎月

平和と安全を祈る大切なお祭りです

日時：毎月1日・18日10時より(約30分程度)

場所：小國神社拝殿

月次祭は、毎月欠かさずに行われ、神職が日本国、また地域の平安と、氏子崇敬者の安泰を祈ります。月参りともいわれ、この日にお参りするとご加護が受けられるともいわれています。歴史的にも大変古く、その始まりは、平安中期に編纂された延喜式にも「月次祭」の記述があります。

事前申込みは必要ありません。どなたでもご参列できます。ご参列の際は、祈祷受付にお声かけください。

11月

しもつき
霜月

1日	月次祭	(午前10時)
1日	一宮祖霊社月次祭	(午前11時)
3日	明治祭	(午前10時)
6日	本宮山月次祭	(午前10時)
7日	山神社例祭	(午前10時)
15日	七五三祝祭	(午前10時)
18日	月次祭・稲祭	(午前10時)
19日	疫神齋	(午後 4時)
21日	地鎮祭	(午前10時)
23日	新嘗祭	(午前10時)

12月

しわす
師走

1日	月次祭	(午前10時)
1日	一宮祖霊社月次祭	(午前11時)
6日	本宮山月次祭	(午前10時)
13日	鎮火祭	(午後 3時30分)
18日	月次祭	(午前10時)
18日	滝宮例祭	(午前11時)
18日	初穂献納祭	(午前11時30分)
21日	甲子祭	(午前10時)
25日	煤佛祭	(午後 1時)
31日	大祓式	(午後 3時)
	除夜祭	(午後 4時)
12月中旬	治郎柿ワイン完成奉告祭	

小國神社の 祭典・

9月～



宮代神饌田拔穂祭のご案内

10月1日午前11時より、宮代神饌田拔穂祭を斎行いたします。神饌田で行われる稲穂の収穫神事で、5月の御田植祭で地元旭が丘中学校の生徒が植えた稲を、白装束姿の奉耕者が忌鎌で丁寧に刈り取ります。収穫された稲穂は新嘗祭でご神前にお供えされ、一年の五穀豊穰に感謝を捧げます。

9月

ながつき
長月

- 1日 月次祭 (午前10時)
- 1日 一宮祖霊社月次祭 (午前11時)
- 6日 本宮山月次祭 (午前10時)
- 18日 月次祭 (午前10時)
- 23日 秋季皇霊祭遙拝式 (午前10時)
- 23日 一宮祖霊社秋季祭 (午前10時30分)

10月

かなづき
神無月

- 1日 月次祭 (午前10時)
- 1日 宮代神饌田拔穂祭 (午前11時)
- 1日 一宮祖霊社月次祭 (午前11時)
- 6日 本宮山月次祭 (午前10時)
- 17日 神嘗祭遙拝式 (午前10時)
- 神嘗奉祝祭 (午前10時15分)
- 18日 月次祭
- 福神像頒布式 (午前10時)
- 22日 甲子祭 (午前10時)



秋季皇霊祭遙拝式

9月23日、宮中では歴代の天皇・皇后・皇親の御霊を祀る祖霊祭『秋季皇霊祭』が厳かに行なわれます。当社では、同日に皇居内の皇霊殿の方角に向けて拝礼し、皇室の弥栄と国の安寧を祈ります。



新嘗祭

11月23日10時より、大神様へ1年の収穫と諸産業発展の感謝を申し上げる新嘗祭を斎行し、奉納農産物感謝祭や篤志奉納者への感謝状の贈呈式も執り行います。年間の祭典の中でも最も重要な祭祀の一つです。



小國神社公式・神棚の里ECサイトのご案内

ご家庭に神棚・神具を
感謝と祈りの暮らしをお届けします

「小國神社公式 神棚の里ECサイト」では、伝統的な神棚から現代の住空間に調和するモダンなデザインまで、幅広いラインナップで取り揃えています。和室・洋室を問わずどんな空間にも自然に馴染む洗練されたデザインが特徴で、新築や開店、人生の節目にふさわしい神棚セットや盛り塩、しめ縄、縁起物なども豊富にご用意しています。

また、古くなった神棚を丁寧にお祓いし、焼納するサービスも承っております。遠方にお住まいの方でもご自宅から簡単にご利用いただけますので、詳しくは左記のQRコードからご確認ください。

ご家庭に「感謝」と「祈り」
の場を整える機会に、ぜひご活用ください。



小國神社公式
神棚の里
ECサイト



公式HP・SNSのご紹介

小國神社
公式Webサイト
(Domestic)



小國神社
公式Webサイト
(Overseas)



小國神社
公式Instagram



◆ 辞令交付 ◆

出仕 豊田 蒼空

小國神社権禰宜に任ずる

(令和七年四月一日付)

神社本庁

新体制のもと、職員一同、神慮を畏み、宮司を輔け、祭祀の厳修とご神徳の発揚に精励致す所存です。
今後とも倍旧のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

編集後記

玉垂七十二号をお届けします。

暦の上では秋を迎えましたが、うだるような暑さは衰える気配を見せません。昨今話題となっている「地球沸騰化の時代」という言葉を、今年もまた日々実感しています。

近年の猛暑は、都市部における緑地の減少や、ヒートアイランド現象なども一因にあると言われています。このような気候変動が激しい時代において、私たちの祖先が護り伝えてきた、鎮守の杜のありがたさを改めて感じます。当社の鎮守の杜である「癒やしの斎庭」は、静謐な祈りの場であるとともに、豊かな森が〇〇吸収源として機能し、葉の蒸散作用によって周囲の気温上昇を穏やかにします。先人たちが永い年月をかけて護り育んできた鎮守の杜を、次世代へと確かに継承していくこともまた、現代に生きる私たちの大切な務めの一つであると存じます。



イラスト…
小國神社明神通り縁結び公式キャラクター
「うち君(上)」「うち姫(下)」